

織機の仕組みを学ぶ学生ら＝一宮市大和町馬引で



オリジナル衣装 完成目指す

生地作り 伝統の技学ぶ

一宮 学生向け講座スタート

尾州フライド

繊維やファッションに関心を持つ学生たちが、尾州の技術者から生地作りを学ぶ講座「翔工房」が十七

日、一宮市大和町馬引の一宮地場産業ファッションデザインセンター（FDC）で始まった。

学生たちに伝統の技術を伝え、新たな発想で製品作りに挑戦してもらおうと、二〇二〇年から毎年実施。

今年には全国の大学や専門学校から十二人が参加する。来年一月まで、尾州の繊維関係者らに「対一」で指導を受け、オリジナル衣装の完成を目指す。

この日、学生たちは初めに、FDCの職員から尾州の歴史やウールの特徴について講義を受けた。その後、近くにある尾張繊維技術センターで織機や染色機などの機械を見学して、生地作りの工程を学んだ。参加した名古屋芸術大三

年の杉山春花さん(三〇)は「初めて見る機械もあったので良かった。いろいろと教えてもらいながら良い糸を探していきたい」と語った。学生たちが作った衣装は、来年二月に市内の展示会で披露される予定。

(猿渡健留)